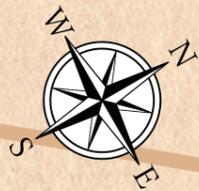


いちばらフィールドマップ 菊間・山木

総距離 約4.5km (移動時間のみで約135分)



明治29年の若宮八幡宮(菊間八幡神社)境内の様子

菊間藩について
 慶應4年(1868)5月、徳川家達の駿府(静岡県)入封により、沼津藩水野忠敬が菊間へ移封されて成立した藩です。領地は5万石、藩庁は字雲境に置かれ、藩校明親館を開設しました。明治4年(1871)7月、廃藩置県に伴い菊間県となり、同年木更津県に統合されました。

【凡例】

- 標柱のある歴史遺産
- 主な歴史遺産等
- 公共施設等
- 推奨ルート
- 消滅した古墳
- 現存する古墳



KK-04 千光院

市原市犬成に創建、土気城主酒井定隆による領内寺院の法華宗改宗政策、上総七里法華を避け、時の住職広済僧都は当地へ移転し、開基となったといひます。千光院の僧も発起人の1人として天明の大飢饉からの救済を機に開かれた市原郡八十八ヶ所霊場の88番札所、廃寺となった近隣寺院の同霊場の碑があります。境内には宝永3年(1706)銘の庚申塔や出羽三山供養塔等があります。



KK-05 道祖神社

菊間八幡神社の裏から南の山木に抜ける道の途中から、大厩へ抜ける旧道の入口に位置します。社殿内には、正徳3年(1713)銘の道祖神の石塔が安置され、足の神様として古くから信仰されたことから、多くのわらじが奉納されています。敷地内には享保10年(1725)銘の馬頭観音像や、明治期の浅間神社の石碑などが置かれており、菊間地区の南の境界として現在でも目印になっています。



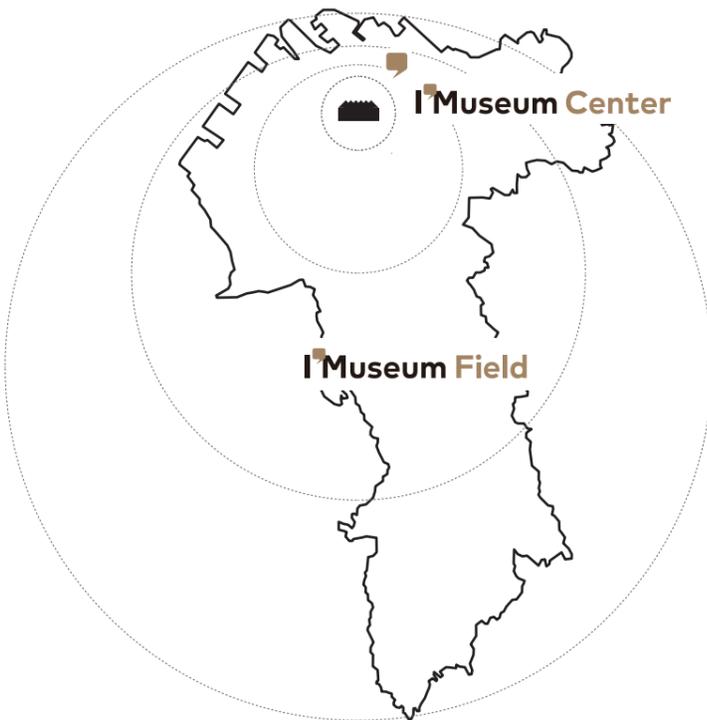
KK-06 常徳院

新義真言宗寺院で、観音堂の聖観音菩薩坐像は、鎌倉文化を受け入れた宗風彫刻を受け継ぐ14世紀半ばの制作と推定され、市指定文化財になっています。江戸時代は能満釈蔵院末寺でした。天明4年(1784)銘のある市原郡八十八ヶ所霊場83番の石碑が参拝者を迎えます。境内には、宝暦14年(1764)銘のある地藏尊や牛久等への道筋を示した道標、出羽三山登拝記念碑等があります。



KK-07 白幡神社

京都石清水八幡宮より分霊したと伝わり、誉田別命を祭神として祀ります。明治初年の火災による焼失を免れたといわれる天保年間(1830~1844)の彫刻は、現社殿の向拝柱にも使われています。市道拡張工事に伴い、鳥居の移転や社殿の新築等、境内が整備されました。境内には天保10年(1839)銘の天水鉢があり、金毘羅大権現、八坂太神、痘瘡神等が合祀されています。



見学される皆様へ

- ★歴史遺産は、郷土の歴史文化を伝えてくれるかけがえのない財産です。個人所有物であったり、私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。
- ★駐車場は基本的にありませんので、公共交通機関を利用しましょう。路上駐車や無断駐車は厳禁です。
- ★社寺の境内や墓地は、信仰の対象です。行事が行われていたりする場合もあるので、迷惑にならないよう行動しましょう。
- ★ゴミは必ず持ち帰ってください。
- ★他人の家や社寺など建物の中に、無断で入らないようにしましょう。
- ★見学の際は、所有者の許可を得るのが基本です。特に団体で見学されるような場合は、事前に了承をとるようにしてください。
- ★保存や管理の都合上、公開日が決まっていたり、見学ができない場合があります。事前に確認して、公開日に見学しましょう。

いちほらフィールドマップ

制作・発行：市原市教育委員会

市原歴史博物館 〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 Tel.0436-41-9344 Fax.0436-42-0133

令和7年3月 第1版第1刷発行

I Museum Field

菊間・山木



村田川と海岸平野を見下ろす台地上に位置する菊間エリア。かつてクマと呼ばれたこの地には、国造とその祖先の墓所とされる古墳群が残り、明治維新期に置かれた菊間藩の教育文化が今も息づきます。

I Museum



KK-01 菊間八幡神社

白鳳年間に日本武尊・武甕槌尊の二柱を祀り、治承4年(1180)源頼朝が鎌倉より大鷲尊を分祀し、若宮神社と称したとされる古社です。本殿は延享5年(1748)の建築、三間社流造で周囲に玉垣が廻り、拝殿との間に一間一戸の瑞門があるなど、古式の神社配置様式を留めています。武官の姿を表した木造隨身像は、13世紀の作とされ、社殿とともに市指定文化財となっています。



KK-02 菊間天神山古墳

東京湾と村田川下流域を臨む台地上に立地します。墳丘径約44メートル、高さ3.5メートルの大型円墳で、古墳時代後期(6世紀前半)の築造と考えられます。のちの菊麻国造に連なる有力者の墓と考えられ、墳丘や周溝からは円筒埴輪や形象埴輪が発見されています。墳丘上には、名前の由来となった天神宮の石祠が祀られています。



KK-03 天神社

千葉氏の家臣高嶋恒重が治承年間(1177-1181)に菅原道真公を祀り創建したと伝えられます。社前の「撫で牛の狛犬」は、神社を守り、体の悪いところと同じところを撫でると回復するといわれています。鳥居は文化12年(1815)の銘、天水鉢は文政3年(1820)の銘、御神燈は安政2年(1855)の銘があり、境内には、子安大明神や妙正大明神、天明3年(1783)銘の道祖神等が祀られています。